

月経困難症（大野倫史氏症例）

女性 三六歳 公務員

主訴 右卵巣膿腫、子宮筋腫及び子宮腺筋症

現症 月経痛がひどく、前もって鎮痛剤を服用しておかないと寝込んでしまう。嘔吐と下痢を伴う。

現病歴 就職は14年前、ストレスなどから月経痛がひどくなり、その年の七月から月経痛に嘔吐が伴うようになる。病院で子宮後屈及び子宮内膜症と言われ、子宮と腸の癒着があるとも言われた。今までに5～6回のホルモン療法を受けたが効果はなく、徐々に下痢まで伴うようになった。

1ヶ月前に特にひどい月経痛のため病院に行き、数日後にMRIにて右卵巣膿腫と子宮筋腫（筋層内筋腫）と子宮腺筋症による子宮肥大と診断された。そこで左卵巣のみ残し、右卵巣と子宮の摘出手術を勧められた。しかし、まだ独身でもあり、できれば手術したくないということで、まず3ヶ月様子を見て再検査し、憎悪傾向であれば右卵巣だけでも摘出することとなった。

そこで藁をも縋る気持ちで当院に来院した。

所見 細・緊・尺落・胃の気弱い。腹部は下腹部全体が緊張気味で子宮部が堅く張った感じだが、特に筋腫のコブなどは触れず圧痛もない。火穴反応も特になし。天牖の圧痛あり。

処置 扁桃、胃の気三点、下垂、骨盤虚血各処置（次膠は灸頭鍼を行う）陰谷、曲泉特に曲泉は多壯灸で毎日自宅での施灸を指示する。来院は週に1～2回。

経過 六回目（二十日目）治療を始めて初めて月経がくる。先月ほどではないが月経痛はひどく、鎮痛剤使用、嘔吐あり。治療後はほぼ平脈になるがすぐ戻ってしまう。

八回目（二七日目）前回、長野先生より「蠡溝」がよいとアドバイスいただいたので自宅施灸を曲泉から蠡溝に変更する。月経時以外は特に体調は悪くない。

十三回目（五一日目）2回目の月経。月経痛あり、鎮痛剤使用、嘔吐あり。細脈は少し太くなってきている。月経痛に対して蠡溝の刺鍼と施灸で痛みが緩和した。

二一回目（八四日目）3回目の月経になったが比較的楽だったので鎮痛剤を使わなくても過ごせた。嘔吐はまだあるがいつもより軽かった。少し希望が見えてきたと喜ぶ。細脈はあまり感じなくなってきたが、貧血がややあるのと内分泌のバランスのために骨盤虚血処置を継続する。

三十回目（百十九日目）先日3ヶ月目の再検査を受けたが内診だけでMRIは行わなかった。月経痛が楽になっていることから、また3ヵ月後に今度はMRI検査を行う事になった。今月の月経もさらに楽で鎮痛剤なし、軽い嘔吐あり。緊脈はほとんど緩む。腹部の緊張もやや緩んできた。ただし左大巨の圧痛（+）で瘀血処置を追加する。

その後3ヶ月、月経は軽くなり、鎮痛剤も使わず寝込むこともない。軽い嘔吐はあるが尺落を呈さない日がたびたびある。

また、1ヵ月後にMRI検査で、子宮の肥大は残存するものの、子宮筋腫は微かにそれらしいものが写っている程度になり、右卵巣脳腫は消失して確認されなかった。

この日の前日から月経が始まったが、痛みも軽く寝込むこともなく、嘔吐もなかった。
その後も健康管理を兼ねて定期的に治療を継続中である。

考察

腹部や火穴の所見はあまりはっきりとしませんでした。かつて子宮後屈や子宮と腸の癒着を指摘されていたことと、胃の気が弱く、尺落の脈状が現すように内臓が下垂しており、また細脈で骨盤内臓器の循環障害による虚血状態に陥っていると思われました。

ヒトは4本足から直立して2足歩行するようになり、それまでは背骨が梁のようになって内臓を支えてきたが、立ち上がることによって、内臓が下がりやすい構造になった。そして腹部の筋肉や靭帯などの緩み、腹圧の低下によって内臓の位置異状が生じ、特に下部に位置する生殖器などにストレスがかかって、それによって内分泌異状が引き起こされ、子宮筋腫や子宮内膜の異常増殖、卵巣腫瘍が生じたと考えました。そして、疲労やストレスなどで扁桃が弱体化したことから免疫細胞の処理能力が低下して、前述の異常増殖細胞への攻撃と消化処理がうまく行われなくなったことが原因であると考えました。

そこで、扁桃強化のため、扁桃処置、腹圧をあげる下垂処置、そして骨盤虚血処置を基本処置としました。それから子宮および卵巣の消炎鎮痛の処置は、長野潔先生の『鍼灸臨床わが三十年の軌跡』の婦人科疾患の症例11と12、『鍼灸臨床新治療法の探究』の470頁を参考に、また前述した長野康司先生のアドバイスに従いました。生活指導としては、クーラーや冷たい飲み物で身体を冷やさないこと、砂糖や果糖を獲り過ぎないこと、この患者は毎晩、食後のデザートとしてかなりの量の果物を食べる習慣があったのでやめさせました。そしてうがいをする、鼻呼吸を意識することなどを指導してきました。

自宅での施灸を嫌がる患者が多いのですが、この患者はほぼ毎日施灸を続けたことが大きく関与したと思います。また、職場の部署が変わり、以前のようなストレスが少なくなったことも良かったのかもしれません。

十数年にもわたって苦しみ、各種ホルモン療法によっても改善されなかった月経困難症が半年あまりで改善され、子宮及び卵巣の摘出手術を免れた患者自身の喜びは非常に大きなものでした。私自身も患者の希望に沿って結果が出せたことに喜びと安堵の気持ちを感じております。多大なご指導と示唆をいただきました長野先生と長野式臨床研究会のみなさんに感謝しております。